

Matto High School Library News

石川県立松任高等学校図書委員会、平成29年6月号、No. 19

雨蛙の鳴く声に梅雨の足音を感じる季節となりました。図書館では5月後半に新入生オリエンテーションが行われました。図書館の利用案内に加え、行事や本の紹介、本に関するクイズを解いたり、俳句を作成しました。

図書委員会では生徒のお薦め本を書店にて8名で選定。6月は梅雨の読書週間の企画で貸出ポイントラリーを実施します。高校で初めて本を借りる人も、この機会に図書館に来てイベントに参加してみませんか。

2 新任の教職員オススメ本

北村幸恵校長先生

書名：『べ切本』

編者：左右社編集部 左右社：刊

有名作家たちの、原稿締め切りをめぐるエッセイや日記等を集めた本です。どうしても原稿が書けない苦しさ、はかない現実逃避、ちょっと笑える無理な開き直り…、編集者との駆け引きや信頼関係も浮かび上がってきます。「作家も大変だなあ」「ばかだなあ」「一生懸命生きてるんだなあ」と親しみを感じてもらえれば、そしてその作家の本を読むきっかけにできればうれしいです。

中野純子先生（英語・12H担任）

書名：『上昇思考』

著者名：長友佑都 角川書店：刊

長友選手はとにかく前向き。ポジティブ。彼のいつでも笑顔で感謝を忘れない姿勢を自分自身も見習いたいと思わせてくれる一冊です。

信じて信じて頑張れば必ず夢は叶う。どんなに辛いことがあっても、後から振り返れば、それはただの通過点であり、逆になくってはならない経験だったと気付くことができるかも。ぜひ読んでみて下さい。

宮本佳代子先生（書道）

書名：『旅する本』－「手のひら迷路」所収

著者名：石田衣良 講談社：刊

旅行する時のガイドブック？いいえ、旅の本ではありません。人から人へ「旅をする」本の物語です。

元気がない人、落ち込んでいる人のところに、さりげなくその本は現れます。そして、読み手に合わせて変身し、読み手の境遇に沿った物語を展開します。物語を読み進めるうちに、次第にその世界に引き込まれ、いつしか、心にパワーが生まれる…。

このような本が実際にあったなら、どれ程多くの人が勇気づけられるかと思います。落ち込んだ時、この本がどのような本になって現れるかと考えられたら、今の苦しい状況から脱け出す日が近いのかもしれないですね。

短編集の中の1つなので、すぐに読めます。

竹田勉先生（理科・34H副担任）

書名：『一番になる人』

著者名：つんく サンマーク出版：刊

みなさんよくご存知の、「シャ乱Q」や「モーニング娘。」で大成功をおさめた、アーティストでありプロデューサーでもあるつんくが、自らの成功体験を語った本です。普通だったら、「手に届きそうもない」と、すぐにあきらめてしまうようなことであっても、具体的に計画的に少しずつ実現していくことで「手に入れられる」ということを、説得力のあることばで語っています。

6月の休館日

1日（木） 2日（金）
26日（月）～28日（水）

※返却は図書館前の返却ポストへお願いします。

貸出ポイントラリー

梅雨の読書週間6月5日（月）～23日（金）

1冊借りるとハンコを1ポイント押印。

5ポイントためて抽選券をもらい応募しよう！

古雑誌・古本が、最大3冊までもらえます。

全部で15ポイントためることが可能。

☆抽選会は7月7日（金）昼休み

☆期間中、本の貸出冊数は上限5冊

谷栄美さん（事務・主任主事）

書名：『このあとどうしちやおう』

著者名：ヨシタケシンスケ ブロンズ新社：刊

絵本です。身近な人が亡くなったことをきっかけに、死と生について考えるお話です。夢や目標を持つことの素晴らしさに気づくきっかけになればと思い、おすすめします。